

酪農学園大学

新春号
Vol.151

聖句

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

フィリピの信徒への手紙3章12-14節

2020年7月撮影



RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY
酪農学園大学
<https://www.rakuno.ac.jp>



公式サイト



酪農学園大学附属
とわの森三愛高等学校
Towanomori San-ai High School attached to Rakuno Gakuen Univ.
<https://www.san-ai.ed.jp>



公式サイト



生きるを学ぶ。
学びが生きる。





コロナ時代の高等教育の あり方を模索する

学校法人 酪農学園

理事長 谷山 弘行



2021年の新年を迎えました。昨年は、国民の多くが新時代(令和)の幕開けを期待し、またその可能性を信じた年でありました。しかし、年明け早々、中国武漢市を震源地とする新型コロナウイルス感染症が発生し、瞬く間に世界に拡大しました。世界で数千万の人々が感染し、百万を超える人々が犠牲になりました。感染の広がりの波は繰り返し世界を席卷しています。世界を一つにする東京オリンピック、パラリンピックも今年に順延になり、かつ経済活動も見通しのつかない状態にあります。有効な治療やワクチンの開発が急がれていますが、未だ目処が立っていません。この新型コロナウイルス感染症の広がりは、酪農学園の教育活動にも大きく影響しました。対面授業からオンライン授業への転換に大学、高校ともに全教職員が昼夜を問わず対応に追われました。しかし、最も影響を受けたのは学園で学ぶ学生、生徒たちであります。まさしく、教育においては片肺飛行を余儀なくされております。この状況下、学生、生徒の苦労も想像以上のものがあると窺われますが、教職員の丁寧な対応を以ってなんとか切り抜けている状況であります。これらの活動に理事長として深く感謝を表したいと思います。この状態は今年も続く予測されており、新たな対応を整えていかなければなりません。学生、生徒の理解を得ながら、教職員一同、取り組みたいと考えています。

「酪農学園だより」は、この新春号を以って紙面による「お便り」を終了することになりました。現代のICTの充実と、これを活用した情報量の拡大は今後の学園活動に大きく貢献するものと思います。今後は学園ホームページ上での皆様への情報の提供を充実させてまいります。どうぞご理解をお願いし、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

1960年以来、60年の長きにわたって酪農学園の教育活動を支えてきました「公益財団法人酪農学園後援会」が、今年度を以ってその活動に幕を閉じることになりました。これからは酪農学園が、その意思や資産を引き継ぎ、活動を続けていくことにいたします。酪農学園後援会の意思を受け継ぐ責任を重く受け止めて、今後の活動に活かしていきたいと思います。

最後に、ICTの発展とその充実は高等教育のあり方を大きく変えていきます。未来を見据えて新たな学校教育のあり方を模索する時代の真只中にあることを認識して、今後の学園運営を展開してまいります。学園を支えてくださる皆様のご理解と、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

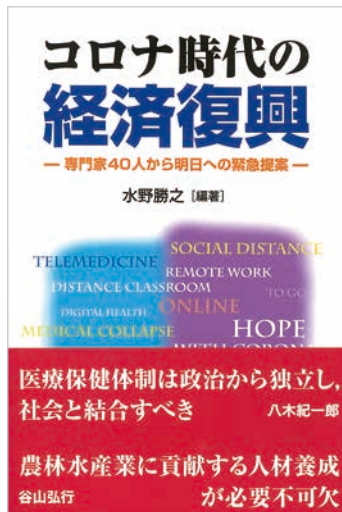


コロナ時代の経済復興

— 専門家40人から明日への緊急提案 — の紹介



理事長 谷山 弘行



株式会社創成社から「コロナ時代の経済復興—専門家40人から明日への緊急提案—」を出版しました。水野勝之(明治大学商学部教授)編著による全国40名によるコロナ時代を乗り切るアイデアをまとめたものです。多岐にわたる専門分野からの提唱です。8章から成り、第1章—技術進歩・イノベーション、第2章—現代貨幣理論(MMT)、第3章—経済政策、第4章—農林水産業、第5章—過去からの教訓、第6章—生活、第7章—企業経営・産業、第8章—人材育成・スポーツ、から構成されています。

著者は第4章—農林水産業、第1節:「農業の復興が我が国を救う」という提案をしました。

以下のとおり、一部をまとめて紹介します。

<1. はじめに>: グローバル化によって、新型コロナウイルス感染症は急速に拡大した。今や、一國で経済が成り立っている国はなく、かつ人々の行動に制限はない。従っ

て、世界が同時性に対応しなければならないが、それは不可能である。

<2. 工業科学技術立国の限界>: 我が国の経済構造の限界が見えてきた。戦前戦後を通して工業立国を目指し、世界に類を見ない産業構造を構築してきた。しかし、現在、新興国が工業技術で追い上げを見せ、我が国の優位性は失われつつある。一方で、我が国は生物資源に恵まれた有数の国であるが、豊かな生物資源を生かした産業の醸成は大きく立ち遅れている。我が国の産業構造のパラダイムシフトを提唱する。

<3. 「食」の危機と農業の衰退>: 世界の脅威、それは「食糧配分の偏り」と「食の安全・安心」が保証されないことである。食料自給率40%以下の我が国では、農業の大規模化、機械化、AI活用スマート農業が推奨されている。結果、農業人口は激減し、農村社会・文化の崩壊を招く。古来、食文化は農村文化に育まれてきた社会的根幹的価値観であった。しかし、現代の都市型食文化は、人々の「生活様式」と「文化的価値観」を根本から変えた。その結果が、約650万トンに及ぶ食品の廃棄(食品ロス)である。金額にして11.1兆円、北海道の農生産額のほぼ10年分に相当する。

<4. 農業復興につながる食農教育のすすめ>: 農業の衰退とともに農村社会が崩壊し、農文化に育まれた食文化も変質してきた。食品ロスを生み出す都市型食文化はその行き詰まりを暗示する。農業(一次産業)を復興し、生み出す生物資源を十分に活用することは、二次・三次産業への経済的依存度を和らげ、自然環境との調和の取れた成熟した国創りへの道のりが開かれる。その国創りに貢献する人材の養成には、食文化と農文化を結ぶ「食農教育」が必要である。

<5. 人材養成の教育立国へ>: OECDの最下位に位置する我が国の教育費は、教育の劣化を招き、未来を開拓する人材の貧困化を招いた。かつて人材豊富であった我が国は、世界に類を見ない発展を遂げた国である。生物資源の増産・活用を目指す技術を開発し、工業化学技術との調和を図り、多様性を持った国の発展に寄与する人材の養成が必要不可欠なのである。人材豊かな国であり続けたい。



鈴木直道 北海道知事が初来学し、本学附属動物医療センターを視察

谷山理事長と日本の農と食を支える人材育成について意見交換を実施



(左から) 谷山理事長、鈴木北海道知事、三好江別市長

2020年10月14日に鈴木直道北海道知事が来学されました。谷山弘行理事長から大学の概要を説明した後に、総診療件数日本一を誇る附属動物医療センターを視察いただきました。

加藤敏英センター長から生産動物診療エリアを、上野博史伴侶動物医療分野長から伴侶動物診療エリアをご案内いたしました。

そして、谷山理事長から北海道のみならず、日本の農や食を支える人材を数多く輩出している本学の教育・研究の重要性について説明がありました。

最後に、石島力常務理事から、本学の乳製品製造実験実習室で製造されている乳製品(バター、チーズなど)について紹介があり、江別市のふるさと納税のお礼品に指定されたことの説明がありました。

詳しくはWEBで



【関連】江別市のふるさと納税
お礼品に本学の乳製品が指定

詳しくはWEBで



世界初!学内野生酵母を用いた 赤ビートワインの製品化に成功

2020年9月に大学院修士課程を修了した南典子さん(指導教員:山口昭弘教授)が、赤ビートワインを完成させました。

南さんは、9月まで大学院酪農学研究科食品栄養科学専攻修士課程に社会人大学院生として所属し、「学内野生酵母の分離と赤ビートワイン醸造への応用」をテーマとして研究を進めていました。

この度、その研究成果として、学内のシーベリーから分離した野生酵母(*Hanseniaspora vineae*)を用い、赤ビート原料を合同会社アグマリンプロテック社から無償提供を受け、委託醸造先としてばんけい峠のワイナリーに協力いただき、世界初となる赤ビートワイン(ハーフボトル360ml、80本、販売無し)を完成させました。



(左から) 山口教授、南典子さん、夫の貴幸さんと娘の杏奈さん

詳しくはWEBで



本学で初の全身麻酔下での ヒグマのMRI検査を実施

のぼりべつクマ牧場のヒグマ「ショウヘイ」2歳、体重110kgのオスが、てんかん発作の可能性があるとして、2020年6月25日に附属動物医療センターで初となる全身麻酔下でのMRI検査が行われました。クマの診療は珍しく、本学と同牧場の共同チームは2年前に、同牧場のツキノワグマの白内障手術を行っており今回で2回目の診療となりました。



詳しくはWEBで





Topics of the High School 高校のトピックス

ソフトボール部 全道大会優勝!!



詳しくはWEBで



2020年9月19、20日に開催された選抜大会北海道予選に出場しました。決勝戦では、昨年の優勝校札幌東商業高校と対戦し、8-0で完封勝利し優勝旗を奪還、3月に栃木で開催される全国選抜大会の切符を手に入れました。保護者や卒業生などたくさんの方にご声援をいただきました。本当にありがとうございました。

獣医・理数コース1年生 道内研修旅行



2020年10月7日～9日、獣医・理数コース1年生は道内研修で道東方面へ行きました。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とは内容が一部異なりましたが、十勝農業共済組合鹿追家畜診療所でウシの手術を見学したり、旭山動物園で本学卒業生でもある坂東園長の話を聞いたりして、獣医師の仕事を実感し、自らの生き方について深く考えることができました。また、北海道の広大さや自然環境も肌で感じることができ、非常に有意義な研修となりました。



詳しくはWEBで



女子バレーボール部 全道大会出場!!



女子バレーボール部は2020年10月11日に立命館慶祥高校で行われた選手権大会江別地区予選(春高バレー)で優勝し、全道大会進出を果たしました。現3年生は、部員が少なく苦勞した時代も経験しており、その分喜びも大きいものになりました。これからも、応援してくださる方々への感謝、バレーボールができることへの感謝、チームメイトへの感謝を忘れず、更なる高みを目指して頑張ります。



詳しくはWEBで



各コース2年生 研修旅行

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、各コースで研修の日程や目的地の変更等を余儀なくされました。機農コースは道南・道東方面、フードクリエイティブコースは山陽・関西方面、総合教育コースは長崎方面、トップアスリート健康コースは関東方面、獣医・理数コースは道東方面における研修を企画しました。それぞれ対応に苦慮しながらも、コース独自の視点にこだわった、充実した内容の研修となりました。なお、12月時点で機農コースと総合教育コースは延期となり日程調整中です。



フードクリエイティブコース オリーブの収穫



フードクリエイティブコース レモンの収穫

詳しくはWEBで





History

酪農学園だより 50年の歩み

WEBで見る
酪農学園だより

酪農学園だよりの歴史は、学生・生徒や教職員が教育・研究や部活動、地域貢献に取り組んできた成果で築き上げられています。1969年(昭和44年)から愛されてきた本冊子は、今号の第151号を以って各種ウェブサイト等へ情報発信が引き継がれます。

長年のご愛顧に感謝いたします。思い出とともに、この歴史を振り返ります。

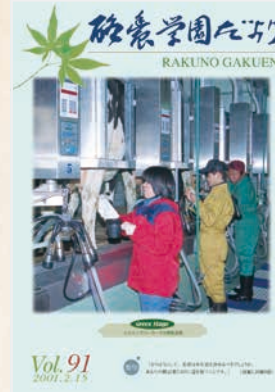
昭和から令和まで 学園の歴史を彩ってきた表紙



1969年 第1号
B4サイズ 記念すべき第1号



1994年 第72号
B5サイズ 表紙カラー化



2001年 第91号
A4サイズ フルカラー化



2021年 第151号
A4サイズ 今号

「本学の発展」を伝えてきた紙面



1969年12月20日 第1号 酪農科学の最高学府
大学本館(現A1号館)前で憩う学生たちの写真とともに、本学所期の目的である「酪農人育成の使命」を掲載しました。



1972年11月1日 第9号 大学・短大統合校舎完成
「三階建てのデラックスな教育研究棟が石狩平野と札幌市を見下ろす小高い丘の上に堂々と新築されました。」と建築物(現C2号館)の進展について伝えました。



1983年10月15日 第39号 機農高校四十周年のあゆみと今後の展望に向けて
節目となる年には、開校当時の校舎(昭和17年)の遠景を載せるなどして歴史の振り返りと、これからの将来計画について伝えました。



2004年7月31日 第102号 大学附属動物病院完成
酪農学園大学附属動物病院が新築移転し、2004年4月6日に開院したことを伝えました。



酪農学園に関する各種公式ホームページを紹介します。それぞれ特色のあるホームページになっていますので、ぜひQRコードの読み込み、またはサイト名を検索してアクセスしてください。

各種公式ホームページを紹介

学校法人 酪農学園



学校法人酪農学園の公式ホームページです。組織・役員の紹介をはじめ、沿革・学園史、酪農学園行動計画などを掲載しています。動画ギャラリーには、酪農学園80周年記念動画があります。



酪農学園大学



酪農学園大学の公式ホームページです。大学の概要やカリキュラム、学類・大学院案内、研究情報、就職支援、学生生活についてなど、酪農学園大学に関する情報を発信しています。



酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校



酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の公式ホームページです。学校案内、コース案内、学生生活、クラブ活動、入試情報についてなど、高校に関する情報を発信しています。またブログで各コースのことを伝えています。



受験生向け公式ホームページを紹介

酪農学園大学 受験生サイト



入試情報サイトです。入試に関する情報だけでなく、オープンキャンパス・進学相談会のご案内、在学生の体験談や就職状況など受験生に必要な情報を集めたサイトとなっています。



酪農学園大学 オープンキャンパス特設サイト



オープンキャンパスの紹介サイトです。当日のイベント内容はもちろん、学生スタッフの紹介、学生たちの夢、参加者の感想なども掲載しています。



酪農学園大学 WEBオープンキャンパスサイト



コロナ禍により2020年に新設したサイトです。直接、受験生に会うことができないため、生配信のWEBイベントで学類の魅力や施設を紹介したり、ZoomによるWEB個別相談にて、進路の不安、心配に直接対応したりしています。



酪農PLUS+



酪農PLUS+ のトップページ

学生・生徒をはじめ、酪農家の方々にとって有益な情報を配信しています。牛乳を使ったミルクレシピの料理動画や、酪農・乳製品に関する疑問に本学教員がお答えする質問コーナーなど多岐にわたる情報を公開しています。



牛の結び方〜モクシの作り方〜

動画を見る ▶

酪農技術動画



筋肉レシピ集『筋肉モリモリ！ささ身とクリームチーズのグラタン』

動画を見る ▶

ミルクレシピ動画





SNS Social Networking Service 酪農学園大学の公式SNS

酪農学園大学が運用している公式SNSアカウントです。大学のニュース、学生の活躍、学内の風景、研究成果など、公式ホームページでは伝えきれない情報を発信しています。

Facebook



北海道の四季、授業の様子、イベント情報など随時発信！写真や記事の共有が簡単。本学の魅力と最新情報を伝えています。



Instagram



自然豊かなキャンパスの風景を毎日更新！動物の写真や学生たちのキャンパスライフを紹介しています。



Twitter



大学の「今」をつぶやきます。学生サークルや、学生支援課など学内の情報を共有(リツイート)しています。



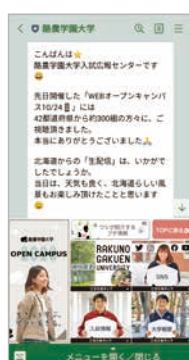
YouTube



「学類紹介」「研究室・実習紹介」「施設紹介」動画などを配信。オリジナル動画コンテンツを充実させていきます。



LINE



受験生のための入試情報を中心に発信！オープンキャンパスや進学相談会などイベント案内をはじめ、在学生の活動などニューストピックスが見られます。



酪農学園大学附属 とわの森三愛高校 公式SNS

日常や行事、部活動の大会情報なども公開しています。学校の雰囲気が良くわかるアカウントとなっています。



Facebook



Twitter



LINE



Instagram

聖句解説

酪農学園大学宗教主任 小林昭博

パウロは世界に福音を告げ知らせた使徒として知られていますが、地中海世界を旅し続けたその歩みは出会いと別れの連続でもありました。そう考えると、「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向け…目標を目指してひたすら走る」と語るパウロの宣言は、弱い自分を鼓舞するためのものだったと思えるのです。むしろ、地の果てまで福音を告げ知らせるという目標があったからこそ、パウロは自らを鼓舞することができたのです。『酪農学園だより』が紙面発行としては、50年の歴史の幕を閉じます。しかし、そのことによって酪農学園の目標が変わるわけではありません。これからも「目標を目指してひたすら走る」酪農学園で在り続けたいと願わずにはいられません。

酪農学園だより VOL.151 2021.1.15

発行:学校法人酪農学園

酪農学園大学／大学院／附属とわの森三愛高等学校

編集:入試広報センター 広報課

〒069-8501 北海道江別市文京台緑野582番地

TEL (011) 388-4158 FAX (011) 388-4157

HPアドレス: <https://www.rakuno.ac.jp>

E-mail: koho@rakuno.ac.jp

印刷:社会福祉法人 北海道リハビリ

※本紙の内容を無断で複写・複製(コピー)することを禁じます。